

小豆を省力的に作るにはいくらかかるの？

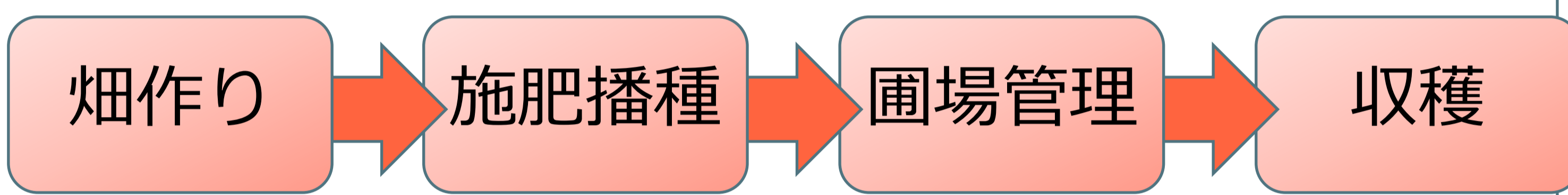
—収穫機械の利用面積との関係から—

概要 Abstract

小豆には色々な収穫方法があります。そのため費用も様々。しっかり稼げる小豆となることを応援するため、小豆生産農家を調査し、コストの面について分析を行いました。

成果 Results

収穫方法が3つ



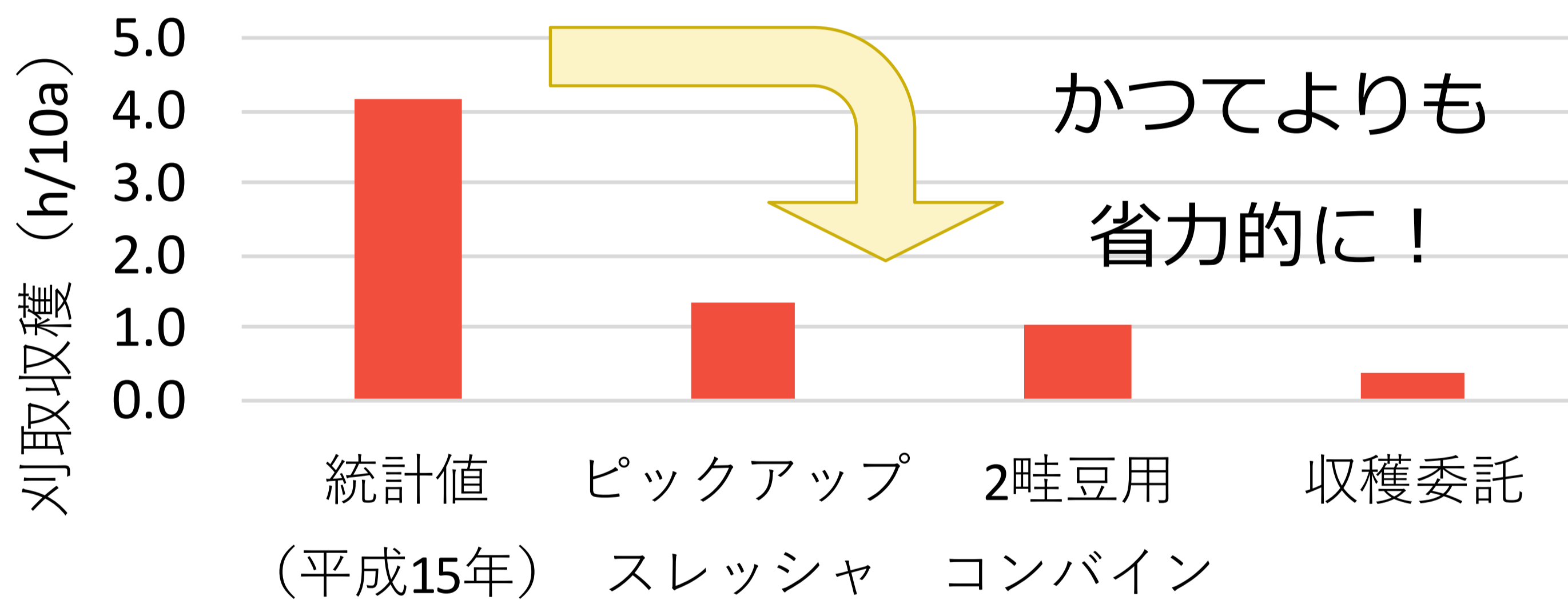
3つのタイプ

ビーンカッター +
ピックアップスレッシュャ

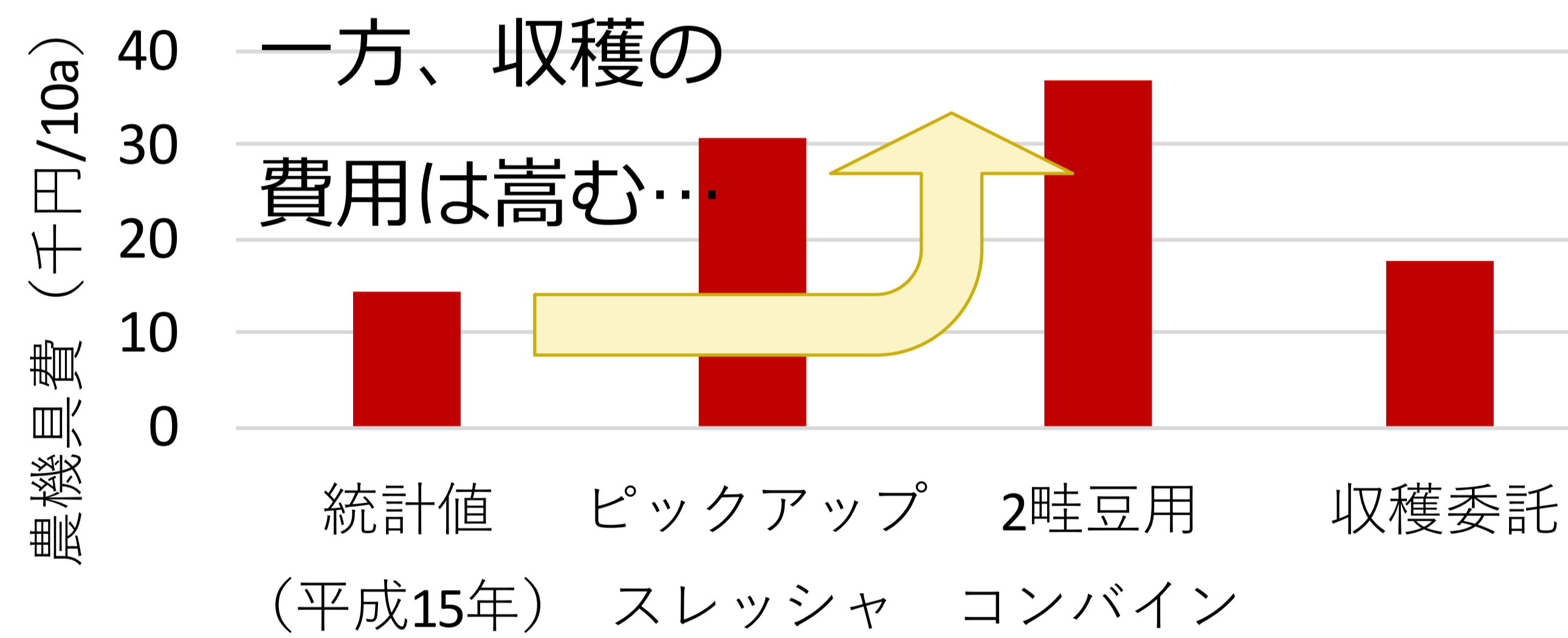
2畦豆用コンバイン
(ダイレクト収穫)

収穫委託

以前より収穫時間は短縮！ & コストはアップ

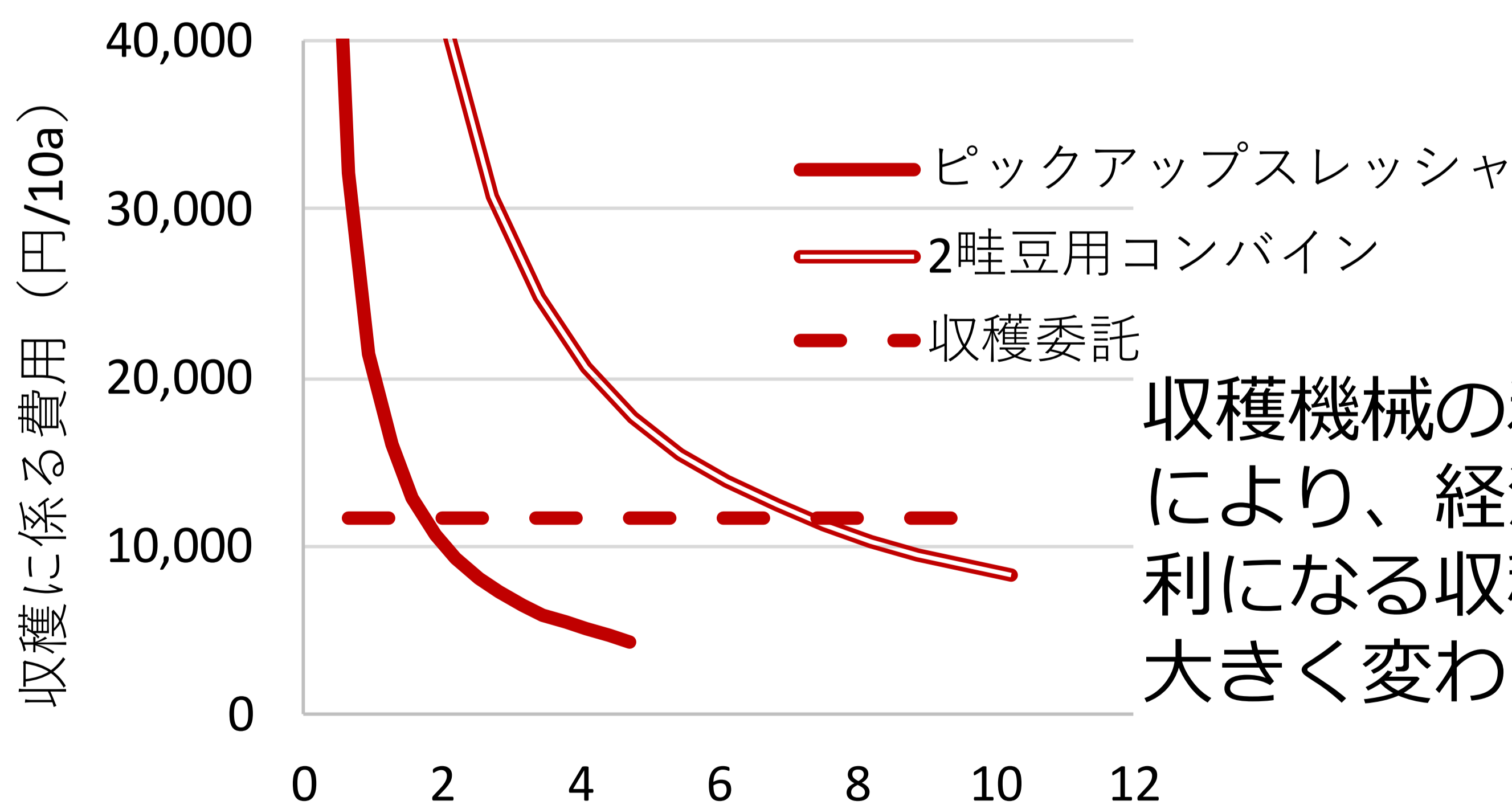


十勝農試調査結果より作成。



十勝農試調査結果より作成。

収穫機械をどれだけ使うかでコストが大きく変化



収穫機械の利用面積により、経済的に有利になる収穫方法が大きく変わります。

2畦豆用コンバインのコストを収穫委託より抑制するためには、8ha以上の小豆作付面積が必要。

ここでの試算は、他豆類でも使う試算なので、小豆のみの利用だと10数haが必要。

普及 Dissemination

- 十勝及びオホーツク地域で収穫体系を選択する際にご活用ください。
- 価格が高い2畦豆用コンバインの導入には他の豆類での利用、共同利用、収穫受託等による負担面積の確保が重要です。

連絡先 Contact

十勝農業試験場
研究部 農業システムグループ
0155-62-9828
tokachi-agri@hro.or.jp